

[2] 四国地域貨物流動の推移

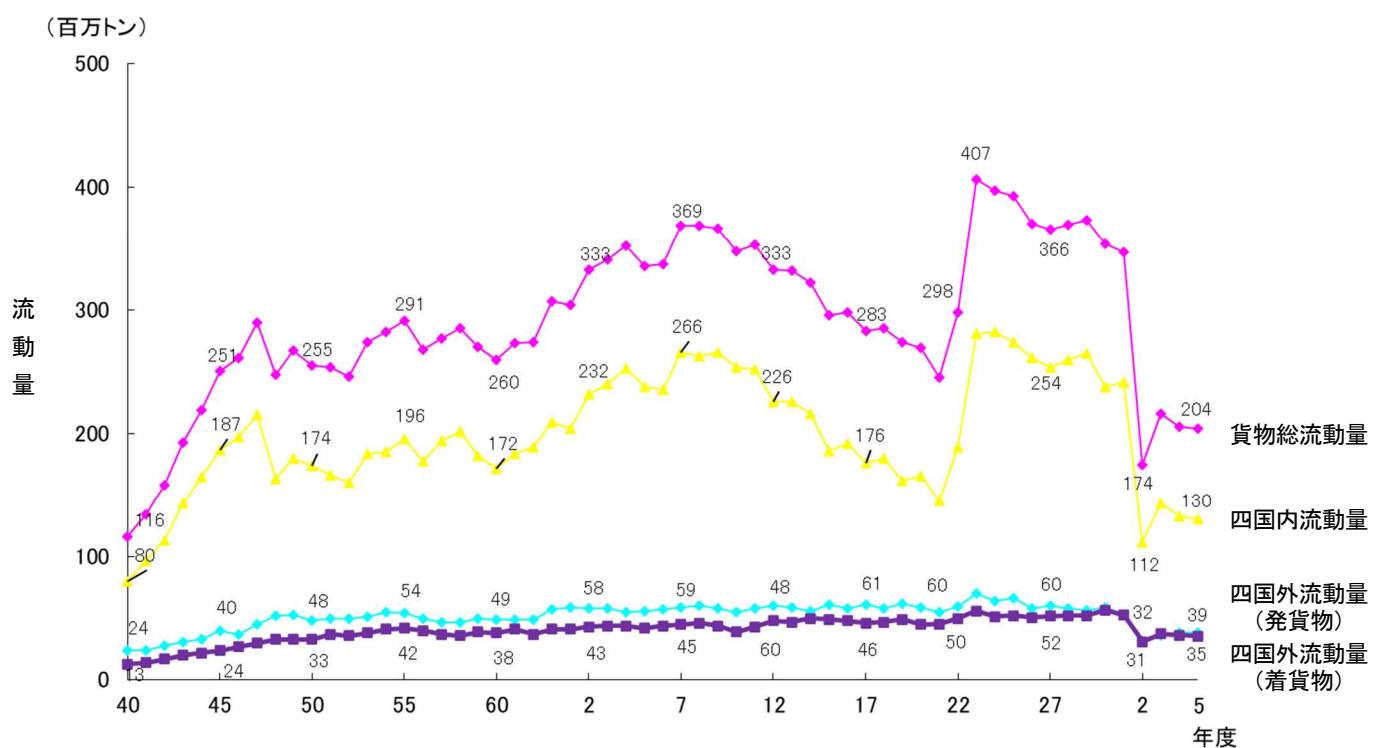
1. 概 要

令和5年の四国経済はおだやかに持ち直しており、設備投資は増加しており、個人消費は物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している。このような状況ではあるが、令和5年度の四国地域における貨物流動量は、前年度比0.8%減の2億417万トンとなっている。

輸送機関別流動量で見ると、鉄道 65.9 万トン、自動車 1 億 4570 万トン、海運 5,781 万トンとなり、鉄道、自動車、海運はそれぞれ 7.4% 減、2.5% 減、3.7% 増と海運を除き前年度を下回った。また、輸送機関別シェアは、鉄道は同率の 0.3%、自動車は 1.2 ポイント減の 71.4%、海運は 1.2 ポイント増の 28.3% となっており、全国値（鉄道 0.6%、自動車 88.4%、海運 11.0%）と比べ海運が高く、鉄道、自動車が低い結果となっている。

品目別流動量で見ると、第1位の「化学工業品」は、前年度比 1.9% 減の 4,389 万トン、第2位の「特種品」は、同 1.4% 増の 4,266 万トン、第3位の「鉱産品」は、同 18.6% 減の 4,065 万トンとなっている。

貨物流動の推移(四国)



[2] 四国地域貨物流動の推移

1. 概 要

令和5年の四国経済は持ち直しており、設備投資は堅調に推移しており、個人消費は物価上昇の影響を受けつつも、着実に持ち直している。このような状況ではあるが、令和5年度の四国地域における貨物流動量は、前年度比0.8%減の2億417万トンとなっている。

輸送機関別流動量で見ると、鉄道 65.9 万トン、自動車 1 億 4570 万トン、海運 5,781 万トンとなり、鉄道、自動車、海運はそれぞれ 7.4% 減、2.5% 減、3.7% 増と海運を除き前年度を下回った。また、輸送機関別シェアは、鉄道は同率の 0.3%、自動車は 1.2 ポイント減の 71.4%、海運は 1.2 ポイント増の 28.3% となっており、全国値（鉄道 0.6%、自動車 88.4%、海運 11.0%）と比べ海運が高く、鉄道、自動車が低い結果となっている。

品目別流動量で見ると、第1位の「化学工業品」は、前年度比 1.9% 減の 4,389 万トン、第2位の「特種品」は、同 1.4% 増の 4,266 万トン、第3位の「鉱産品」は、同 18.6% 減の 4,065 万トンとなっている。

貨物流動の推移(四国)

